

## Asian Diversity No.14 by ASNET

### GFES\*/ASNET共催 国際ワークショップの開催

自然条件の制約を受けた森林生態系との相互作用の歴史を通して、森林地域に住む人々の社会の多様性が育まれてきました。ですから、森林のガバナンス(ルールの設定・適用・執行のあり方)はもともと多様であるはずで、一律に木材伐採や造林を推進してきたアジア諸国の集権的な森林政策が、地方分権的な住民参加型森林管理へと移行してきたのは理に適ったことといえます。このような実践や政策の理論的支柱となってきたのが、オストロム氏(2009年ノーベル経済学賞)らによって主導されてきた「コモンズ論」です。これまで重視されてきた「市場」や「政府」ばかりではなく、世界の数多くのフィールド実態に基づき「コミュニティ」の役割に光を当て、資源管理制度の「設計原則」などが提示されてきました。

しかし、これまでの議論は地域資源を地元の人々が利用し管理することを前提としたものであり、外部との連携は「入れ子状の組織」や「多層構造をもつ関係性」として、その重要性が指摘された段階です。そこで、初めから外部との協働を前提とする「協治」の設計指針(井上, 2009)のうち、特に「段階的なメンバーシップ」と「応関原則」に着目して、アジア全域の森林ガバナンスを検討するため、10月14日(金)に本学農学部にて国際ワークショップを開催しました。招待者16名(インドネシア、フィリピン、ベトナム、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、タイ、中国、韓国)を含む参加者総数は61名で、中身の濃い議論ができました。なお、大学院農学生命科学研究科と学術交流協定を結んだムラワルマン大学(インドネシア)、チッタゴン大学(バングラデシュ)、ルフナ大学(スリランカ)の学長(代理人)からの特別スピーチもいただきました(丹下健副研究科長も同席)。現在は、この国際ワークショップの議論を元にした英語書籍(仮題“Multi-level forest governance in Asia: Recognising diversity”)の出版に向けて準備をしています。

\*GFES(ジーフェス)＝国際森林環境学研究室の略称



国際WSの集合写真(撮影:Mr. Chen Haiyun)  
文:井上真(農学生命科学研究科 教授)

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

Relay Column

## ワタシのオシゴト / 第70回

Rings around the UT

大学院農学生命科学研究科附属演習林 秩父演習林

丹羽 悠二さん

### 秩父の山からヤッホッホー

今年度から利用促進チームに所属し、主に演習林利用者の窓口業務を担当しています。学生さんや教員、研究者の利用申込対応や、一般の方からの問い合わせの受け付けが主な業務です。これまでは森林管理や調査などの外業で山を歩きまわっていましたが、今は椅子に座っていることが多く、なんだか腰やお尻が痛いです。利用者からの依頼や問い合わせに的確に



秋の自由見学日にて

早く返事をしよう!と心がけていますが、なかなかうまくいかず修行の毎日です。

プライベートでは11月中旬に第2子が産まれます。職場の上司や先輩、同僚のご協力のおかげで、1ヶ月間育児休暇を取得することができるようになりました。休暇中にみなさんに迷惑をかけないように、引継ぎ真っ只中です。(この記事が掲載される頃にはもう休暇中ですね…)



林学会のソフトボール大会にも出たよ

得意ワザ: 三振

自分の性格: お調子者バンザイ!

次回執筆者のご指名: 萩原稔さん

次回執筆者との関係: ファン(勝手に)

次回執筆者の紹介: 秩父一の太鼓兄貴